



池江璃花子	6
田中直樹	8
オードリー・タン	10
稲盛和夫	12
中森明菜	14
浅田真央	16
大宅壮一	18
網本麻里	20
藤子・F・不二雄	22
高木那奈	24
中松義郎	26
須崎優衣	28
橋本愛	30
三宅一生	32
長州力	34
長谷川町子	36
坂上忍	40

はじめに

人と人をつなぐメディアであるはずのSNS上では、正義の名のもとにおびただしい数の虚偽妄言が飛び交い、人と人の結び目を壊し続けています。そして、ますます、混乱に拍車をかけています。「ウソも方便」が、「ウソが真実」みたいになって、何が本場で、何がウソかよくわからなくなってしまいました。

その昔、人類は天まで届くような『バベルの塔』を築きました。それが神の怒りに触れて、人間どうしの言葉が通じなくなったという物語が旧約聖書に書かれています。

多様な世界の言葉は、時を経て今、中身のない殻だけが膨らんだまるでバブル（泡）のようです。傲慢を増長させた文明は滅びるが、多様性から謙虚さを学ぶ文化は滅びないと言われます。さかのぼれば、世界の言葉は一つの言葉からはじまったと言われます。文字も同様です。『戦争と平和』を書いたロシアの文豪トルストイさんは、救いを人間の良心に求め、常に良心に水をやることも重要だと説きました。

「共通の言語」があるのなら、「共通の良心」もありそうです。過去を振り返る「自省」と、正しい判断を導く「良心」こそが、今必要とされる「真実の言葉」なのかもしれません。みなさんいっしょに、もっとたくさん真実の言葉を探す冒険の旅に出てみませんか。



中島らも	108
叶恭子	106
田中優子	104
石牟礼道子	102
藤田真央	100
江村美咲	98
美空ひばり	96
石川祐希	94
宇野昌磨	92
中江有里	90
穂村弘	88
井上順	86
田中あい子	84
高瀬隼子	82
長田弘	80
ドナルド・キーン	78

野田クリスタル	42
今村聖奈	44
パトリック・ハーラン	46
浅川智恵子	48
中村敦夫	50
安藤なつ	52
阿部雅龍	54
田中陽希	56
印度カリー子	58
佐高信	60
江口のりこ	62
村上宗隆	64
柴咲コウ	66
星出彰彦	68
高村薫	70
あさのあつこ	72
大栗博司	74

子どもの夢と願望は、

すべての人間の基本である。

藤子・F・不二雄

1933～1996

漫画家、脚本家

1982年小学館漫画賞（児童部門）

1989年映画特別功労賞、ゴールデングロス賞

1994年日本漫画家協会賞文部大臣賞

1997年手塚治虫文化賞マンガ大賞



「初心に戻る」とは、子どもの心に戻ること。漫画家で脚本家の藤子・F・不二雄さんは、「子どもの頃に抱いた夢と願望が、その人のベースとなって人間形成をはかっていく」と言いました。初心は、忘れずにいたいものです。

国民的人気のSF漫画『ドラえもん』には、そんな藤子・Fさんの子どもの頃の夢と願望がすべて込められていて、何をやってもドジばかりの小学生のび太は、彼自身を投影したものでした。「スポーツが苦手で、意志が弱く、遊んでばかりいて、夏休みの終わりに近づくとき泣き出す。そういうところは、僕の体験そのもの」「のび太は私自身なんです」と藤子・Fさんは語っています。

しかし、「ダメ人間ののび太にも人にはない立派なところが一つだけあって、それは時々反省をすること」「のび太は、反省し、いつまでもいつまでも今より良い人間になろうとするんです」。子どもの頃の願望や想いを、藤子・Fさんは、のび太と、彼をサポートするために未来からやってきたドラえもんに託しました。反省は、「自省」と同じで難しいものです。ドラえもんは、のび太を一人前の大人にするためにやってきて、「反省」の大切さを教えてくれました。